

住みよい まちづくり通信



特集号

道町連 No. 100

●発行日 令和4年3月31日
●発行 一般社団法人 北海道町内会連合会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
かでの2.7
☎(011)271-3178 FAX(011)271-3956
E-mail: info@d-choren.or.jp

ホームページ検索 [北海道町内会連合会](#) [検索](#)

令和3年度ブロック別町内会活動研究大会の報告

オンライン開催

テーマ 安心・安全な住みよいまちづくり

実践報告会

3名の方々から報告

苦小牧市拓勇東町内会
副会長
佐藤 一美さん



コロナ禍で絆を育むため、デジタルとアナログを合わせたハイブリッドな町内会活動を報告いただきました。



千歳市町内会連合会
事務局長
徳永 隆さん

インターネットによる電子回覧板とホームページ回覧板による地域の活性化事例を報告いただきました。



室蘭市町内会連合会
副会長
小林 秀光さん

広域連合自主防災会の取り組み事例とともに災害発生時の地域メディアとの情報連携の取り組みを報告いただきました。

令和3年度ブロック別町内会活動研究大会が、去る10月29日札幌市において、道内各地より328名の視聴を得てオンライン開催されました。本年度は、安心・安全な住みよいまちづくりをテーマに、講演、実践報告会の内容で行われました。

開 会

令和3年度 ブロック別 町内会活動研究大会



講 演

住民主体の支え合い、安心して暮らせる地域づくり



▲講演講師の近畿大学総合社会学部 松本行真教授

災害時の新たな連携体制について提案いただきました。

目次

令和3年度ブロック別町内会活動研究大会の報告 1~4
■特集 100号発行記念 住みよいまちづくり通信 5~8
ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動 9
災害に強いまちづくり全道運動 9

管内町内会連絡協議会のすがた 10
道町連共済のページ 11
道町連からのお知らせ 12

講演概要

テーマ

住民主体の支え合い、安心して暮らせる地域づくり

講師

近畿大学総合社会学部教授

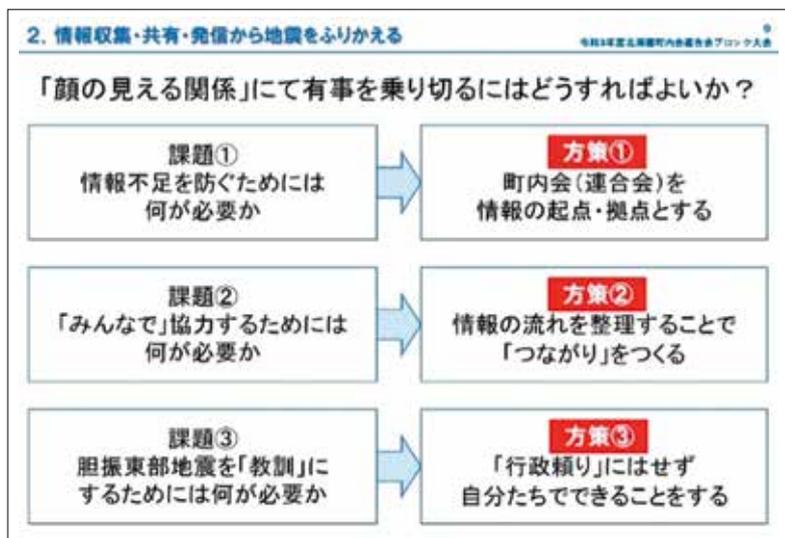
松本 行真氏

2018年胆振東部地震から3年

2018年9月6日午前3時すぎ。地震発生時、私は研究仲間の3人で函館市のホテルに宿泊していました。エリアメールがブービー鳴って地震を知らせていました。函館は震度5弱でした。停電のためスマホのradioで地元民放を聴くと、各地の震度を読み上げる女性の声が震えていました。停電のためスマホの充電サービスは混雑しガソリンスタンドは大渋滞でした。東日本大震災の時も同様でした。さらに、自宅で発電機を動かして一酸化炭素中毒で亡くなった方がいました。災害慣れしてないから慌てるんだと思いますが、道内各地の知人に話を聞くと、住民組織レベルで動いていなかった。情報不足やデマの流布によって不安が増大していたなどの話を聞きました。そこから私の疑問が生じました。

地震を振り返り、3つの疑問と課題

一つ目は情報不足がなぜ生じたのか。二つ目は何故みんなで協力してしのげなかったのか。三つ目は、胆振東部地震から3年経過しましたが、その後の有事対応の教訓になっっているのかの3つです。



方策1 単位町内会・連合町内会を情報の起点・拠点とする

自治体防災担当者の調査結果(2021・1実施)から、単位町内会・連合町内会からの連絡が情報伝達先として単位町内会・連合町内会へ流れて情報共有し活用されているのが4割以下に留まっています。一方で、単位町内会・連合町内会と連携しない

この疑問に対する課題を方策として、①町内会・連合会を情報の起点・拠点とする。②情報の流れを整理することで「つながり」をつくる。③行政頼りにはせずに、自分たちで出来ることをする。この3つの方策により問題提起をしていきたいと思っています。

中でも、約7割の自治体が情報収集等はよく出来たと評価しています。課題として、自治体と単位町内会・連合町内会の関係が弱く、自治体対住民という個人の関係となっていて、組織対組織の関係になっていないことがあげられます。

方策2 情報の流れを整理してつながりを作る

単位町内会・連合町内会において、情報の流れを整理して、班↓単位町内会↓連合町内会の「つながり」をつくれないうかが。調査結果を見ると、情報は、身内、町内会の「内」での共有に留まっています。連合町内会で情報を吸い上げたとしても、「内」での共有に留まり、行政やメディアとのつながりは出来ていません。要するに、身内同士の情報のやりとりになってしまっているのが現状ではないでしょうか。課題として、単位町内会・連合町内会「外」との普段からの関係構築が必要ではないかと考えます。

方策3 行政頼りにはせず、自分たちで出来ることをする

連合町内会では、連合町内会内外の官民連携した情報収集・共有・発信体制の構築が望まれています。同時に、「地域・住民に関わる情報とりまとめ拠点」連合町内会」という社会的意義を発信していく必要

FUJIYA AID

お客様本位の柔軟な対応をお約束します。

株式会社フジヤエイド

〒065-0009 札幌市東区9条東16丁目1番20号
TEL(011)741-5131/FAX(011)704-3582
工場 アスカトーホク印刷株式会社
TEL(011)704-5712/FAX(011)704-3582

- 事務機器
- 事務用品
- 一般印刷
- 包装資材

があります。単位町内会では出来ないが連合町内会に出来ることはないのでしょうか。自治体防災担当者、単位町内会・連合町内会との連携で有事対応を求めていることが調査結果からも明らかです。それぞれが出来ることをしっかりとやり、その先に協働が生まれてくるのではないかと考えます。

▼災害時に「顔の見える関係」で有事を乗り切る「福島県四倉地区」の事例

東日本大震災被災地の福島県いわき市は震災前の人口が35万人。東京と仙台のほぼ中間に位置しています。常磐ハワイアンセンター（現・スパリゾートハワイアンズ）があるところです。原発事故で最大3万人ぐらいいわき市内へ避難しており、また津波により約300人の犠牲者が出ています。これからご紹介する四倉とはご縁がありまして、2009年に、四倉のふれあい物産館を道の駅に変えるお手伝いをさせていただきました。ワークショップの時には、四倉地区の区長会長さんをはじめとした地元の方々が大勢集まり、侃々諤々の議論を経て、2009年12月24日に道の駅が開業しました。その1年半後の東日本大震災による津波で被災しました。震災後、4月下旬から道の駅に仮設テントを張って仮営業を始めています。翌年8月には二階建ての立派な建物となり再開業しています。これら四倉地区復興のキーパーソンになったのは、区長会の会長さんと道の駅の取りまとめ役であるNPO法人よつぐらぶの理事長さんのお二人だと思います。

▼四倉地区区長会の東日本大震災後の対応

東日本大震災後、四倉地区区長会（連合町内会）の対応をヒアリングしました。それによると第一波前の避難誘導は出来たそうです。しかし、第一波

避難して、大したことなくだったので戻って亡くなった方が20名おられるということです。一方で避難は出来たけど、その後の物資配分、在宅避難者への対応が課題になりました。こうした東日本大震災を教訓として、区長会を中心とした「四倉地区防災連絡会議」を立ち上げ避難訓練も熱心に行いました。四倉地区は市内他地区と比べても避難訓練への参加者はかなり多く、結束力や動員力は高いといえます。

▼2016年11月22日に福島沖地震が発生

早朝に発生した福島沖地震は震度5弱で津波警報が発令されました。その地震発生から1週間後に四倉地区区長会長と四倉支所の方々にヒアリングを行いました。対応できた部分の一つに住民同士の避難者受け入れがありました。一方で、各地で渋滞が発生し、早朝6時だったため「誰が鍵を開けるのか」という避難所開設の対応が課題として残りました。翌月にアンケート調査をお願いし、津波警報を受けて、住民組織がどう対応したのかをうかがいました。回収率が約8割と多くの方に協力をいただきました。そこでは津波想定浸水エリアを中心に渋滞が発生しました。例えば、JR常磐線の遮断機が降りっぱなしになり、踏切で大渋滞が発生したそうです。また自由回答で良かった点としてあがったのが「高台の自宅に知り合いが避難してきた」こと。悪かったのが「渋滞」、また「どこに行けばいいのかわからない」が課題としてあげられました。

▼2019年10月に東日本台風・豪雨による断水、四倉地区の給水対応

東日本台風・豪雨により約10日間の断水がありました。その後、班単位でアンケート調査をさせていただきました。回収率がほぼ100パーセントでした。東

日本大震災の時、在宅避難者に対して物資配分が出来なかったという教訓があり、区長会の会長が音頭を取って、各区長・町内会長さんをお願いして給水対応にあたりました。「避難所に入れなかった」、「新生児がいたので車の中で過ごした」などの課題があげられました。区長会主導による給水対応の取り組みは一つの成果と判断しています。これは住民同士の関係が強いというプラスの面が顔の見える関係につながり、災害時、有事の際にできたことなのかなと思います。

▼今はオンラインで顔の見える関係をつくるチャンス

これまでは対面中心の関係構築でした。今はコロナのために、オンライン会議とか主催する側にとっては顔が全然見えないので物凄くやりにくいです。反面、間口が広がった部分は大きいともいえます。町内会にとって、「ピンチはチャンス」じゃないですが、オンラインで顔の見える関係をつくるチャンスとも考えています。今、この大会をオンラインで視聴されている現役世代の皆さんがどれだけいらっしゃるでしょうか。

現役世代が町内会に参加しにくい理由としてあげられることが、一つ目に敷居が高い。いわゆる暗黙知の多い組織となっているのではないのでしょうか。二つ目に活動時間が平日で参加しづらく、仕事が休みの土日はプライベートに費やしたいこと。三つ目に町内会自体を知る機会が少ないことです。昔は子供会などを通じて知る機会がありました。

提案1 暗黙知を形式知にして共有する いわき市薄磯区会の事例より

「暗黙知を形式知にして共有する」とは、知らない。

聞いてない等を回避するために役員会等での議論を公開することです。一方で、「知らない」とは言い訳ができないので、参加意欲もわかってしまいます。この後にお話ししたたく苦小牧市拓勇東町内会さんの報告にも一部含まれるのかなと思います。「知ってもらおうことで敷居を下げているいろいろな世代を巻き込む」という提案です。

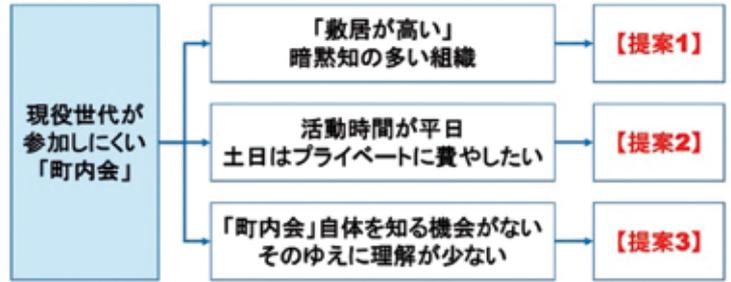
例えば、薄磯区会では、集会所にあるホワイトボードに月1回開催される役員会の議事概要が次の役員会まで残されていて、議事録や町内会関係の資料は鍵が掛かっているない棚にあるなど、誰もが見られるような状況になっています。また、概要を『うすいそだより』として月1回、閲覧板で回しています。

4. 「顔の見える」関係をどうつくるか

37
令和3年度北海道ブロック別町内会活動研究大会

(2) どうすればよいか？

- ・ 様々な手段・ネットワークを使い、「顔の見える」関係を構築
- ー いわき市薄磯区を例に



提案2
どこどこでも参加出来るオンラインを活用

今、Zoom会議で時間や場所の制約は緩くなっている、若い人の取り込みが容易になるのではないかと思います。一方で、スマホなどのツールの使いこなしの個人差が出てくるため、旧来のやり方も併用すると二度手間になることもあります。薄磯区会の役員さんは13人で、上が70代、下は40代、LINEで役員会の告知もしています。この後の千歳市町内会連合会さんからはオンラインを活用して、間口を広く、手間を減らし、告知効果を高めながらつながっていく…といった報告をしていただきます。



提案3
メディアを巻き込む

自分自身の関心事で申し訳ないんですが、メディアを巻き込んで「認知↓関心↓関与」の流れをつくれなれないものか。とにかく知ってもらおうことが大事だろうと思います。昔、町内会は身近なものでした。今は知らない人が多い。そこはメディアも含めて巻き込んでいくのが大事なのではないかと思っています。いわき出身で福島のテレビ局に在籍するアナウンサーは新人の頃からいわき沿岸部の継続的な取材しています。その成果を放送し、地域内外へ地域の復興状況を発信しています。そうしたメリットがある一方、メディアの人たちとの距離の取り方は難しいんじゃないかと思っています。この後に室蘭市町内会連合会さんの報告の中にある「人とメディアの関係づくりを通じてみんなを守る」ことにつながっていくのかなと考えています。

▼ 住民主体の支え合い・安心して暮らせる地域づくりを実現するために

住民主体の支え合い、安心して暮らせる地域づくりを実現するために、災害や有事対応は個人では限界があります。みんなが乗り切るといいう意識づけが必要だと思えます。有事においては適切に行動するためには情報が必要で、個人単位での情報収集は難しく、ある程度の規模を持った組織として単位町内会もしくは連合町内会での情報のやりとりが必要です。単位町内会・連合町内会はそのような意義・役割をみんなに知ってもらい理解してもらおう工夫が必要です。最後に、薄磯区の皆様とよく話していることですが、地域づくりは無理をせずオープンに何か面白そうなことをやってみようという心も大切なんじゃないかなと考えています。

お客様のそばに。地域のなかに。

ミライフでんき

ミライフ北海道

〒063-0846 札幌市西区八軒6条西11丁目1-1

TEL: 0120-50-3612

～町内会の皆様～

電気は毎日使うものだから少しでもお安くお使いいただきたい。

3ステップで簡単申込！ぜひご相談下さい。

おうちのでんきも、オフィスのでんきも
無料試算しております！詳しくはこちらから



創刊号

発刊にあたって
初代 山内源吾会長

創刊号は、青少年の健全育成に取り組む宗谷管内枝幸町本町町内会の一輪車での健康づくり活動が表紙を飾りました。

3面の本会初代会長の山内源吾氏からの「発刊にあたってのあいさつ」では、町内会自治会のリーダーへ向けて組織の活性化を呼びかけ、末尾では「一度灯した情報紙が永遠に消えることがないように皆様のお力添えをお願いします」と結んでいます。



発行日：昭和63年3月30日

特集 100号発行記念
住みよいまちづくり通信

北海道町内会連合会では、昭和63年3月に広報紙「住みよいまちづくり通信」創刊号を発行。以来35年をかけて概ね年3回の発行を継続し、おかげさまで本号にて100号発行を迎えることができました。本号ではこれまで発行の表紙をメインにご紹介しながら、節目節目を振り返ります。



No. 7・8

全道の町内会シンボルマーク制定
～町内会活動への参加促進を願って～

シンボルマークは、全道にデザインを公募して制定。以来、バッジ、旗、印刷物、法被などに活用されています。

町内会活動の原点は、人です。人が手をとりあって生きる姿をシンボル化しました。

シンボルマークの青は、どこまでも澄みきった空と海をあらわし、自然豊かな北海道を象徴しています。赤は、ニューフロンティア魂をもとにした町づくりへの情熱をあらわしています。



発行日：平成3年3月31日
表紙のみカラー

No. 6

道町連共済がぐっと充実
～ひろい北海道全部をカバー～



昭和58年スタートの道町連共済は、8年目を迎え損害保険会社と提携。共済会費は200円で現在も同額です。

- ①事故の対象地域が拡大
懸案だった対象地域が市町村内から全道に拡大
- ②死亡見舞金の期間拡大
対象期間が5日以内から180日以内に大幅拡大
- ③後遺障害見舞金の新設

同年、ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動がスタートしました。



発行日：平成2年7月31日

..... 創刊号～No.17号まではB5判、No.18号(平成6年)からA4判になりました。.....

No. 27

道町連共済がさらに充実
～共済ならではの死亡見舞金新設～

道町連共済は15年目を迎え、会費は200円のままで、新たな死亡見舞金Bを新設しました。

- ①代理範囲の拡大
配偶者から現行の「同居する家族のうち1名」に拡大
- ②死亡見舞金B10万円の新設
会議中の急性心不全等、外因・外傷の事故によらない活動中の死亡24時間以内に対して支給。
- ③軽傷事故見舞金5千円の新設

平成9年から、共済ならではの死亡見舞金Bが新設されました。



発行日：平成9年9月30日

No. 25・26

新たな試み
～女性が参加しやすい場づくりをめざして～
町内会活動女性ボランティア研修会報告

研修会は、日ごろ他地域との交流や研修の機会が少ない町内会の女性実践者を対象に新たな試みとして開催。茶話会形式のグループ交流会では、各地の活動が情報交換され、平成8年度から11年度まで4回継続開催されました。

その後、男女の区別なく、お互いの本音を聞きながら、協力しあって活動していくべきとの声により、平成12年度からは現在の町内会活動実践者研修会に発展開催しています。



発行日：平成9年3月31日

No. 33

会長就任にあたって
2代目 丸小一 出彦 会長

本会2代目丸小会長は、前会長の山内源吾氏の意志を受け継ぎ邁進したい。20周年を機に組織強化検討委員会を設けて法人化をはじめ諸課題の具体的な検討を進めたいと述べました。

なお、初代山内源吾会長は、6月の総会で勇退され、翌月の7月に急逝されました。北海道の町内会活動の発展に言葉では言い尽くせぬほどのご功績を残されました。



総会であいさつする初代会長山内源吾氏
発行日：平成11年7月31日

No. 30-31

創立20周年記念
北海道町内会連合会大会を開催
～21世紀に向けた魅力ある地域づくり～

本会20周年を記念して、式典・表彰、記念講演を終え、更なる発展をめざして「大会宣言」が採択されました。さらに、記念パーティが盛大に開催されました。



発行日：平成11年2月26日

No. 37, 38

北海道町内会連合会ホームページを開設
～町内会活動の情報交換の場～

町内会・自治会活動の情報交換の場としてホームページの活用を呼びかけました。

さらに、7面では組織強化検討委員会の報告を受け平成13年度に向けた新たな事業展開が提案されました。

- ①ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動の2年指定枠の新設
- ②準会員制度の新設
- ③道町連共済見舞金の増額



発行日：平成13年3月31日

No. 36

平成12年度全道町内会活動研究大会報告
～有珠山噴火による被災自治会の取組みに学ぶ～

平成12年3月31日の有珠山噴火による被災地で立ちあがった自治会活動の報告をいただき、被災地支援と自治会活動を応援するための緊急アピールが賛同されました。

また、被災地の活動を支援するための見舞金を募集し総額約500万円のお見舞金を当時の虻田町、壮瞥町、伊達市の自治会連合会へ贈呈しました。



発行日：平成12年9月20日

No. 45

会長就任にあたって
3代目 佐藤浩気 会長

本会3代目佐藤会長は、法人格取得準備委員会報告で提案された地域格差をなくした会員の拡大、独自性を発揮した公益事業への展開、道内の町内会自治会の強化・発展に向けて社会福祉協議会等の関係団体と連携しながら推進したいと述べています。

4面では、法人格取得に向けた会員拡大への取組みとして道町連共済説明会の実施による準会員制度の普及を提案しました。



発行日：平成15年7月31日

No. 39

道町連共済がさらに充実
～見舞金の増額と準会員制度の新設～

平成13年度から、道町連共済がさらに充実しました。

- ①傷害見舞金の30%増額
- ②準会員制度の新設
単位町内会として、準会員となり、道町連共済に加入できるようになりました。
- ③安全事故防止啓発研修会への助成事業の新設
(現行の防災活動研修会助成事業の前身)



発行日：平成13年9月10日



No. 51

～災害に強い地域づくりをめざして～
平成17年度全道町内会活動研究大会の報告

平成17年度全道町内会活動研究大会は、度重なる台風や新潟県中越地震等での被災を教訓に、災害に強い地域づくりをめざしてをテーマに開催しました。

あわせて、平成17年度より、防災活動研修会支援助成事業がスタートしました。

4面の町内会活動実践者研修会は、同年に完全施行の個人情報保護法をテーマに開催しました。



発行日：平成17年9月10日

No. 46

～市町村合併と新しい地域づくりを考える
平成15年ブロック別町内会活動研究大会の報告

平成15年度ブロック別町内会活動研究大会は市町村合併と住民主体のまちづくりをテーマに開催。

平成16年12月の函館市の合併に始まった市町村合併は、平成21年10月の湧別町の合併で、当時の212市町村から現在の179市町村に合併がすすめられました。



発行日：平成15年12月10日

No. 60

特集 創立30周年記念
北海道町内会連合会大会の報告

本会30周年を記念して、式典・表彰、記念講演、記念パーティが盛大に開催されました。式典では北海道知事からの祝辞、感謝状の贈呈等が行われ、安心・安全なまちづくりをめざす大会宣言が採択されました。



同年、30年の活動や歩みを振り返った30周年記念誌を発行しました。



発行日：平成20年7月15日

No. 53

有限責任中間法人
北海道町内会連合会を設立

平成18年4月1日からの改正保険業法施行により「道町連共済」にも規制が入ることとなり、現態勢で事業を継続するため、平成18年3月16日付で法人を設立しました。

その後、道町連共済は、平成20年4月から、傷害見舞金の支給上限を10万円とし、法の適用除外となる見舞金制度として再スタートしました。



発行日：平成18年3月31日

No. 66

会長就任にあたって
4代目 長谷川敬二会長

本会4代目長谷川会長は、前会長の佐藤浩気氏には、法人格取得、安心安全のための助成事業の創設など立派な実績を残していただいた。道内の町内会自治会の強化・発展に向けて推進したいと述べました。

なお、3代目佐藤会長は相談役としてお力添えをいただいておりますが、翌年平成23年3月10日に急逝されました。本会の法人格取得、組織強化に並々ならぬご尽力をいただきました。



発行日：平成22年7月20日

No. 61

創立30周年記念
平成20年度全国自治会連合会札幌大会の報告

本会30周年を記念して、全国から800名の仲間が札幌に集いました。第1部の大会では表彰式。第2部の記念講演は富良野塾の倉本聡さんに「北海道で考える」と題してお話いただき、第3部は道内3名の実践報告、第4部は交歓会が盛大に行なわれました。



発行日：平成20年11月20日

No. 80

サイレン合図に自主防災訓練
～みんなでつながり地域を守る～

2～4面では特集にて町内会・自治会広報コンクール受賞作品を紹介。平成2年から4年おきに実施し7回目の開催です。

10面では傷害見舞金を均等に支給するための改正を案内。平成27年度から現行の治療のために被害者が実際に負担した医療費(上限10万円)が支給されるようになりました。



発行日：平成27年3月31日
全ページカラー印刷

No. 75

道町連共済30周年記念
平成25年度全道町内会活動研究大会の報告

平成25年度全道町内会活動研究大会は、道町連共済30周年を記念して行われました。道町連共済は昭和58年10月、全道の町内会関係者の長年の願いによりスタートして30年を迎えました。会費はひとり年200円、現在も同額です。今では11万人を超える加入をいただき元気で安全な町内会活動を支えています。

昭和58年にスタートして、おかげさまで30年を迎えました。



発行日：平成25年7月10日

No. 99

初のオンライン開催
令和3年度町内会活動実践者研修会の報告

シリーズ21回目となる本実践者研修会は、コロナ禍における町内会の防災・減災をテーマにオンラインで開催し350名を超える視聴をいただきました。講演はコロナ禍での避難所での過ごし方をテーマに、実践報告は防災風呂敷の活用等についてお話いただきました。



防災風呂敷



発行日：令和3年9月15日

No. 90

創立40周年記念
平成30年度全道町内会活動研究大会の報告

本会40周年を記念して、式典・表彰、記念講演を盛大に開催しました。式典では北海道知事からの祝辞、感謝状の贈呈等が行われ、地域共生社会をめざす大会宣言が採択されました。

大会宣言が採択



発行日：平成30年7月25日

昭和63年3月に創刊した広報紙「住みよいまちづくり通信」は、本号で100号を迎えました。

発行にご協力いただき、毎号お読みいただいている皆様に心から感謝いたします。本特集では、歴代の会長、法人化、道町連共済のあゆみ等を振り返りました。紙面ではご紹介しきれない歴史があります。皆様のお役に立つ情報提供に努めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお祈りいたします。



「こんなものを作りたい」
「こんなことできないかな」
「ホームページってどうやってつくるの？」
「アンケートを集計してほしい人にほしい情報を」

想いをカタチに

www.hki.co.jp

人をつなげる。夢をひろげる。
きかんし印刷

(株)北海道機関紙印刷所

〒006-0832 札幌市手稲区曙2条3丁目2-34
TEL.011-686-6141 FAX.011-676-6684



ひとりの不幸もみのがさない 住みよいまちづくり全道運動

北海道町内会連合会では、地域のひとり暮らしの高齢者や高齢者を介護する家族にとつて一番身近な町内会・自治会に、見守り・声かけ・助け合い活動を実践していただくことを運動目標に「ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動」を平成2年度から北海道社会福祉協議会、北海道共同募金会との三者提唱によりすすめています。

見守り・声かけなどの訪問活動 ふれあいサロンなどの

交流活動に取り組む46町内会に助成

令和3年度は、「単年指定」の30町内会に3万円、新たな事業を2年間で組み立てる「2年指定」の16町内会に5万円、合わせて46町内会に助成しました。本年度は、新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら、地域で見守り・声かけ・助け合い活動をすすめていただくため、実践活動の条件を緩和して実施しました。

6つの活動メニュー

1 啓発活動（知る・知らせる）

- ・啓発冊子、啓発啓蒙防止研修会
- ・健康講座
- ・劣の料理教室
- ・交通安全教室 など

8p

2 交流活動（ふれあい・語らい）

- ・ふれあいサロンづくり
- ・ひとり暮らしの高齢者の交流会
- ・三世代交流会 など

9p

3 在宅福祉サービス活動（ささえあい）

- ・声かけ訪問活動
- ・訪問活動
- ・配食サービス活動
- ・家事援助 など

10p

4 ネットワークづくり（みんながつながる）

- ・災害時要援護者の心のつながりづくり
- ・町内会助け合いチームづくり
- ・防犯パトロール など

11p

5 マンパワー養成（ほい手をつくる）

- ・介護教室、ふまねっと運動研修会
- ・認知症サポーター養成講座
- ・ふれあいサロンサポーター養成講座 など

12p

6 調査活動（実態を知る）

- ・高齢者ニーズ調査
- ・ひとり暮らしの高齢者マップ調査
- ・福祉台帳、カード作成 など

13p

※他にも多くの活動が考えられますので、本フレットの事例にこだわることなく、地域の実情を反映した活動をすすめてください。

共済会員還元事業 災害に強いまちづくり全道運動

北海道町内会連合会では、全国各地で度重なる台風や地震、豪雪、豪雨等による被災を教訓に、「災害に強いまちづくりをめざして」をテーマにした研究大会の開催や研修会への助成事業を通じて、災害時に住民が助け合える安心・安全な地域づくりを推進しています。

防災活動研修会支援助成事業

防災避難訓練等に取り組む41町内会に2万円を助成

本助成事業は、連合会や単位町内会が主催する「防災訓練」や「自主防災組織研修会」に対して2万円の助成をしました。令和3年度は、感染症予防に配慮しながら、安心・安全な研修会をすすめていただき、41組織が実施する研修会に助成しました。

研修会のメニュー

- ▶ 自主防災組織研修会や組織づくりのための会議
- ▶ 防災講習会、炊き出し訓練、防災マップづくり
- ▶ 災害図上訓練(DIG)、避難所運営ゲーム(HUG)
- ▶ 応急手当研修会、救急手当研修会
- ▶ 災害時要援護者世帯調査・マップづくり
- ▶ 安心・安全関係者ネットワーク会議



本助成事業は、道町連共済の会費収入を財源に会員還元事業として実施しています。



令和3年度の事例

見守りでは「なかよし菜園」の野菜をお届けします。

町内会菜園を中心にした世代間交流事業

中標津町東中町内会

中標津町東中町内会（301世帯）では、町内会菜園「なかよし菜園」を中心に町内会員、高齢者サロンの皆さんが世代間を通じてつながっています。春に植えた野菜の種や苗は、役員の皆さんが愛情を込めて育て、天候にも恵まれて、秋には豊作を迎えました。収穫した野菜はコロナ禍で活動を中止している高齢者サロンの皆さんにお届けして近況を語り合いました。



親子で防災クイズに参加

月寒東236町内会・防災訓練

豊平区月寒東236町内会

豊平区月寒東236町内会（100世帯）では、各家庭で防災について話し合い、自宅に備えてもらおうと、防災訓練を実施しました。防災マップの見方、避難場所、非常持ち出し品の説明のほか、クイズ形式による地図記号の説明、本結び、もやい結びなどのロープワーク、ラジオ体操や親子防災クイズが行われ、若い家族も参加して、和気あいあいな中で防災意識を高めました。



管内町内会連絡協議会のすがた

北海道総合振興局・振興局管内を単位とした町内会連絡協議会は道内で8組織結成され、管内市町村間の連絡調整、交流、研修、各種運動の推進等がすすめられています。本号では令和3年度に助成した8組織の概要をご紹介します。

管内町内会連絡協議会への助成について

本会では、総合振興局・振興局単位で結成された連絡協議会の活動に対して、次のような活動費の助成をして応援しています。

- ・活動助成費 3万円
- ・加入促進・共済啓発活動費 3万円

また、連絡協議会が未結成の管内に対して結成を呼びかけています。



【管内町内会連絡協議会の概要】

組織名	会長名	事務局	加入市町村数/ 管内市町村数	加入市町村名	R3年度 予算額 (千円)	結成年月
根室管内 町内会連絡協議会	長谷川敬二	根室市 町会連合会	5 / 5 市町村	根室市・別海町 中標津町・標津町 羅臼町	1,088	昭和58年 11月30日
釧路管内 町内会連絡協議会	黒木 満	釧路市 連合町内会	8 / 8 市町村	釧路市・釧路町 厚岸町・浜中町 標茶町・弟子屈町 白糠町・鶴居村	223	平成2年 6月29日
胆振管内 町内会連絡協議会	馬場 一憲	伊達市 連合自治会協議会	10 / 11 市町村	室蘭市・苫小牧市 登別市・伊達市 洞爺湖町・豊浦町 壮瞥町・白老町 安平町・むかわ町	323	平成4年 3月24日
渡島管内 町内会連絡協議会	大折 伸明	北斗市 町会連合会	11 / 11 市町村	函館市・北斗市 松前町・福島町 知内町・木古内町 七飯町・鹿部町 森町・八雲町 長万部町	134	平成4年 9月17日
十勝地区 町内会連絡協議会	高宮 裕	帯広市 町内会連合会	11 / 19 市町村	帯広市・新得町 清水町・芽室町 大樹町・広尾町 本別町・足寄町 陸別町・池田町 ※幕別町(準会員)	362	平成4年 10月23日
オホーツク管内 町内会自治会連絡協議会	三原 忠	北見市 自治会連絡協議会	17 / 18 市町村	北見市・網走市 紋別市・大空町 美幌町・津別町 斜里町・清里町 小清水町・訓子府町 置戸町・佐呂間町 遠軽町・湧別町 滝上町・興部町 雄武町	354	平成10年 5月21日
宗谷管内 町内会自治会連絡協議会	瀧 勝彦	稚内市 町内会連絡協議会	6 / 10 市町村	稚内市・猿払村 中頓別町・枝幸町 豊富町・浜頓別町	300	平成11年 4月1日
上川総合振興局管内 町内会自治会連絡協議会	中村 雅光	名寄市 町内会連合会	9 / 23 市町村	士別市・名寄市 富良野市・当麻町 上富良野町・剣淵町 下川町・美深町 中川町	207	平成13年 11月26日



知的 快適 創造的オフィス創りで地域に貢献する

サンコー事務機株式会社

お客様の变えたい・良くしたいを「カタチ」にするオフィス・施設の総合テラー

〒060-0013 札幌市中央区北13条西18丁目36番90

TEL 011-614-2255 (代表) FAX 011-614-5245

URL <http://www.sancoh.gr.jp/>



BSI
ISO9001/ISO27001:2005
当社は ISMS 認証企業です。

取扱品目

OA機器全般の販売・レンタル、オフィス関連商品の販売、プロバイダー事業、ICT関連機器の販売、ネットワークシステムの構築、小冊子などの印刷を行うドキュメントサービス、情報システムの提案・導入・保守、基幹系業務(販売管理・給与計算・財務)等をはじめ、その他各業種業務用パッケージソフト提案・導入・保守、OA機器の保守・点検・修理等、福祉機器関連商品の販売、NTT商品取次、その他、オフィス・施設的环境をよりよくするための一切の事業

道町連共済

●安心して活動に参加いただくために

「道町連共済」は町内会・自治会活動中に事故にあわれたとき、見舞金を支給する北海道町内会連合会の会員相互の助けあいの事業です。

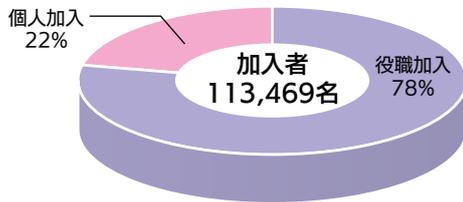
正会員組織・準会員組織に所属する町内会役員、町内会員の皆さんが、ひとり200円の会費で「道町連共済」に加入いただけます。

●令和3年度は11万3千名が加入

令和3年度の共済加入者は113,469名。

道内の117市区町村の3,654町内会より加入いただきました。個人加入と役職加入の割合は、図1のとおりでした。

図1 個人・役職加入の割合



●令和3年度は44件の見舞金を支給

令和3年度の見舞金件数は44件、見舞金は総額1,834,626円支給されました。

前年度に比べ、支給件数は20件減、支給総額は約40万円減となりました。傷害見舞金の1件あたりの平均支給額は約38,000円でした。

(内訳)

傷害見舞金	42件	1,594,626円
後遺障害見舞金	1件	140,000円
死亡見舞金B	1件	100,000円

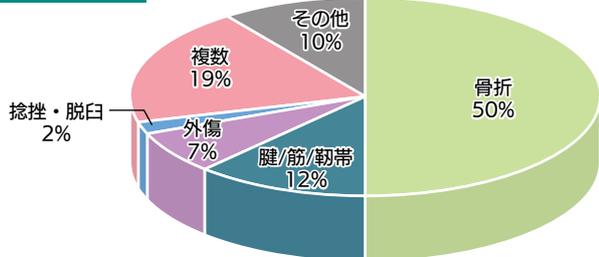
●令和3年度の事故の状況

1. どんなケガが多いか

—最も多いのが転倒による骨折—

いずれも町内会活動中や帰宅途中での路面での転倒による事故が多く発生しました。

図2 ケガの内容

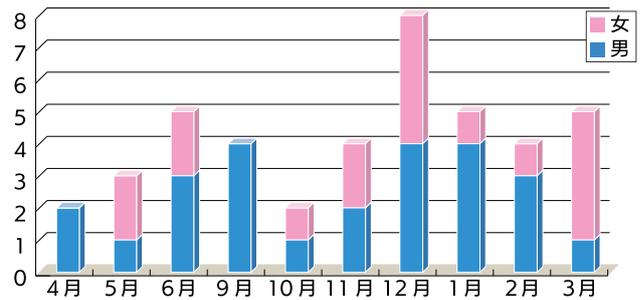


2. 事故の発生時期

—事故が多かったのは12月—

図3のとおり、事故発生時期は12月が多く、町内会活動中や帰宅途中に凍結路面で転倒による事故が多く発生しました。

図3 事故の発生月



3. どのような活動中の事故が多かったか

—環境整備・資源回収・除排雪で多く発生—

今年度はコロナ禍においても、町内会活動として実施された除排雪や花壇の整備、資源回収の事故が最も多く、続いて、回覧板や広報紙の回送中の事故が多く発生しました。

図4 活動ごとの事故状況



4. 見舞金支給事例

死亡見舞金A 200万円 (平成30年度)

77歳女性
管理当番で、高さ2mのごみステーションの屋根の雪降ろし中、屋根から落下。ドクターヘリで病院に搬送されましたが、急性硬膜下血腫で2日後に死亡されました。

後遺障害見舞金 14万円 (令和3年度)

84歳男性
衛生部として新規設置のごみステーション取り付け作業中、ドリルの先端が指にあたり右小指切断。一手の小指の用を廃したものと7%の後遺障害見舞金が支給されました。
※傷害見舞金14,370円が別途支給済み。

死亡見舞金B 10万円 (令和3年度)

80歳男性
環境部員として、公園の草刈り作業中、突然意識を失って倒れ、救急車で搬送。その後、致死性不整脈による死亡が確認されました。

傷害見舞金 95,150円 (令和3年度)

63歳女性
回覧板配布中、凍結路面にて転倒。病院を受診し、第4腰椎骨折で41日間通院されました。
(見舞金の内訳)
・通院分 86,140円
・薬代 4,010円
・診断書料 5,000円 (上限5,000円)

<道町連共済のお問合せ先>

一般社団法人北海道町内会連合会事務局

TEL:011-271-3178 FAX:011-271-3956

Email:info@d-choren.or.jp

創立記念のお祝い
関係者の皆様おめでとうございます

創立
50
周年記念

美幌町自治会連合会 様
会長 平田美木男/昭和47年4月設立

創立
30
周年記念

伊達市連合自治会協議会 様
会長 馬場 一憲/平成3年4月設立

令和4年度全道町内会活動研究大会
【中止】のご案内

例年実施しております全道町内会活動研究大会と交流会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止させていただきます。

令和4年度北海道町内会連合会表彰
のご案内

令和4年度道町連表彰は、例年どおり実施いたします。表彰式は、例年全道町内会活動研究大会席上において実施しておりましたが、令和4年度は中止させていただきます。表彰状は、後日、お届けいたします。

令和4年度総会【書面表決】のご案内

令和4年度総会は、新型コロナウイルスの感染状況や道の方針を踏まえ、本会定款第20条第2項の規定により、書面により実施いたします。なお、議案書は5月中旬までにお送りします。

- 1 表決書提出期日 令和4年5月25日(木)
- 2 議事

- (1)報告事項
 - 令和3年度事業報告
 - 令和3年度収支決算報告
 - 令和3年度監査報告
- (2)議決事項
 - 道町連共済の一部改正(案)
 - 令和4年度事業計画(案)
 - 令和4年度収支予算(案)
- (3)選任事項
 - 役員の改選について

おくやみ

池田 博様(令和4年1月20日ご逝去)
北海道町内会連合会理事
豊平区月寒地区町内会連合会会長

池田博様は、平成25年5月から現在にいたるまで本会理事に就任いただき、会の運営にご尽力をいただいております。長年にわたる町内会活動への貢献に深く敬意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和3年度地縁による団体功労者総務大臣表彰
受賞おめでとうございます

令和3年度総務大臣表彰は、本会から推薦の原田武さん(富良野市)が36年間、室井常雄さん(江差町)が17年間に及ぶ町内会活動の功績に対して表彰を受賞されました。



▲原田武さん(富良野市)



▲室井常雄さん(江差町)

令和3年度全国自治会連合会表彰
受賞おめでとうございます

令和3年度全国自治会連合会表彰は、北海道からは高宮裕さん(帯広市)と黒木満さん(釧路市)が町内会活動の功績に対して表彰を受賞されました。表彰式は、令和3年度全国自治会連合会広島県福山大会の席上予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会が中止となり、表彰式は中止となりました。



◀高宮 裕さん
(帯広市)



黒木 満さん▶
(釧路市)

今後の会議予定

- 令和4年度町内会活動実践者研修会(札幌市)
オンラインと来場型(人数制限あり)の併用開催を予定しています。
 - 令和4年度ブロック別町内会活動研究大会(札幌市)
オンライン来場型(人数制限あり)の併用開催を予定しています。
- ※令和4年度から、両大会の参加費のお願いを予定しています。ご了承ください。
- ※なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催のみとさせていただく場合があります。



Scene
その一瞬に全力。

HBC FLEX 株式会社
エイチ・ビー・シー・フレックス

〒064-0807 札幌市中央区南7条西1丁目13番地73 弘安ビル 3F
Tel.011-521-6100 produce@hbc-flex.co.jp

取扱品目

- オンライン配信 ●動画制作 ●番組制作
- イベントプロデュース ●フィルムスキャン
- 広告代理 ●デザイン

OFFICIAL WEB SITE
www.hbc-flex.co.jp

